

人文學報

CI

創立 80 周年記念論集

京都大學
人文科學研究所

2011

人 文 学 報

第101号

京都大学人文科学研究所

2011年3月

目 次

日本近世における噂の力	岩 城 卓 二	1
高橋由一《山形市街図》と江戸名所絵	高 階 絵里加	19
ツバメ、カモメなどの展望車にてよみあぢはいしことありけり …… —— 新村出旧蔵柳田国男著作の書入を読む ——	菊 地 暁	37
国民帝国日本における異法域の統合と格差	山 室 信 一	63
「博文寺の和解劇」と後日談	水 野 直 樹	81
—— 伊藤博文、安重根の息子たちの「和解劇」・覚え書き ——		
精神分析と父	立 木 康 介	103
 書 評		
『1848：国家装置と民衆』	小 関 隆	113
『米騒動の研究』を読む	籠 谷 直 人	119
『文学理論の研究』を読む	大 浦 康 介	129

『人文学報』投稿規定

1. 『人文学報』は、年に原則二回刊行される学術誌で、人文科学に関する関連領域の論文、研究動向、資料紹介、書評・書評論文、講演会記録などを掲載する。
2. 『人文学報』には、所内研究者、共同研究班班員、所内の客員（国内客員および外国人研究員）、名誉教授、招聘外国人学者、外国人共同研究者、研修員、受け入れ学術振興会特別研究員が投稿できる。これ以外にまた、編集委員会が適切と判断して投稿を依頼する場合がある。
3. 本誌の論文等は原則査読の対象となる。原稿は、査読を経た後、編集委員会の責任において採否を決定する。
4. 投稿料は支払われない。但し、論文、書評論文執筆者には本誌1部が無料で提供される。また抜き刷り50部が無料で提供される。
5. 著者校正は2回とする。
6. 投稿締め切りは、毎年9月末日と12月末日とする。原稿は、『人文学報』編集委員会宛てに送付することとする。
7. 原稿作成にあたっては、『人文学報』執筆要領に従うこととする。
8. 他雑誌への二重投稿についてはこれを禁じる。
9. 『人文学報』に掲載された論文等について、その著者は複製権（電子化する権利）と公衆送信権（公開する権利）にかんする許諾を人文科学研究所に与えたものとする。人文科学研究所は公開の便をはかるために、京都大学が設置したサーバから掲載論文等を画像あるいはPDFなどの形式で送信することができる。

『人文学報』執筆要領

1. 使用言語は原則日本語とする。以下は日本語論文を想定した要領である。
2. 論文には、日本語（800字程度）と欧文（200語程度）の要旨を添付する。日本語のキーワードを5点記す。
3. 投稿原稿は枚数をとくに制限しないが、論文については本文12,000～48,000字を目安とする。書評・書評論文については4,000～8,000字を目安とする。
4. 原稿の表紙に、論文、研究動向、資料紹介、書評、書評論文などの区別を明記する。ただし、この点に関する最終判断は編集委員会が行う。
5. 原稿は、ソフト名を明記し、デジタルファイルとそのハードコピーを提出する。
6. 原稿は、A4サイズとする。
7. 図表、写真などには、それぞれ通し番号と表題を付ける。それぞれの挿入場所を、本文の右側欄外に番号で指定する（手書きでよい）。
8. 引用文献・参考文献などの形式は各専門分野の慣行に従うこととし、とくに規定しない。
9. 注は後注とし、注には通し番号をつけ、本文とは頁を改めて作成する。本文中の注は、字肩に上付きで、1)、2)などと記す。また、右側欄外に注番号を記しておく（手書きでよい）。
10. 書評、書評論文、新刊紹介などの場合には、別紙に、著者名（フルネーム）、書名（副題、シリーズ名、巻数なども含めて）、刊行地、出版社、ページ数、定価などを記す。
11. 他の言語で既に発表したものと内容が重なる場合は、その旨明記する。

編集委員

田 中 雅 一
岩 城 卓 二
伊 藤 順 二
高 階 絵里加

人文学報 第101号

(京都大学人文科学研究所紀要 第167冊)

2011年3月25日 印刷
2011年3月30日 発行 **非 売 品**

発行所 京都大学人文科学研究所
京都市左京区吉田本町

印刷所 明文舎印刷株式会社
印刷者 中 村 仁
京都市南区吉祥院池ノ内町10

THE ZINBUN GAKUHŌ

JOURNAL OF HUMANITIES

Vol. 101

MARCH 2011

CONTENTS

- The power of rumor in early modern Japan T. Iwaki
Takahashi Yuichi's *View of Yamagata City* and the Famous Views of Yedo E. Takashina
Reading Izuru Shinmura's handwritten notes on Kunio Yanagita's books A. Kikuchi
Integration and discrimination in the Japanese nation-empire S. Yamamuro
"The reconciliation in Hakubunji" and its sequel : a note on the "reconciliation ceremony"
 between the sons of Hirobumi Ito and An Jung-gun. N. Mizuno
Psychanalyse et père K. Tsuiki

Book Reviews

- SAKAGAMI Takashi (ed.). *1848: State Apparatus and the People* T. Koseki
INOUE Kiyoshi, WATANABE Toru (ed.). *Studies in Rice Riots* N. Kagotani
KUWABARA Takeo (ed.). *Studies in Literary Theory* Y. Oura

Published

by

THE INSTITUTE FOR RESEARCH IN HUMANITIES
KYOTO UNIVERSITY

ISSN 0449-0274